

トイレ掃除をすれば 謙虚な人になれる

〜流した汗だけ また 学校が好きになる!〜

京都市教育委員会 教育長 門川 大作



知人に熱心に誘ってもらったお陰で、十年前に「京都掃除に学ぶ会」にご縁を頂きました。鍵山秀三郎相談役の長年の実践に基づき「掃除道」に心が震え、私の父が「人間の尊さは掃除をしている姿を見れば一番よくわかる」といつも言っていた言葉の深さを感じました。

今朝、無心のトイレ掃除の清々しさで充実感。参加者の笑顔と体験発表の素晴らしさ。この感動を多くの教職員や保護者、子ども達とも共有したい。続けさせてもらえば自分が変わるだろう。大人も子どもも変わる。学校も変わる。そう確信しつつも私自身、忙しさを口実に時々参加させていただく程度で、人をお誘いもせず歳月を過ごしていました。

しかし、「京都掃除に学ぶ会」の方々の熱意あふれる地道な取組と、平成十六年と十七年の「地域教育フォーラム・イン京都」での鍵山相談役の講演などが、教職員やPTA関係者等に大きな転機を与えて下さり、トイレ掃除の輪が大きく広がる出発点となりました。

今、京都市立学校では、教職員と児童生徒、保護者や地域の方々によるトイレ清掃が広がっております。「流した汗だけ、また学校が好きになった」これは小学生の声です。また、「感謝できる感性が育つ」「心を込めて掃除をする」と心も洗われる」「一生懸命取り組む姿に感動」など、その人間の生き方を参加者皆が確信しています。さらに嬉しいことに、「地域教育フォーラム・イン京都」の反響と各学校におけるトイレ掃除の広がりに呼応して、十七年二月、「京都掃除に学ぶ会」の傘下に京都「便きょう会」が誕生したことです。この会は、児童生徒による心を磨くトイレ掃除を奨励・援助すると共に、会員自身もトイレ掃除を通して研鑽を積むことを目的としています。便きょう会の「きょう」を敢えて平仮名にしたのも、「教、響、協、共、京、今日…」など、様々な願いを込めています。当初四十五名の有志で発足しました。学校や神社仏閣などをお借りして、第二土曜日の

早朝にトイレ掃除を行っています。これまで二十数会場で、延べ三千人以上の人々がトイレ掃除に参加されました。お陰さまで、会員数も現在、保護者・市民の方を含め約二〇〇名近くに迫りつつあります。例会で若い先生、ベテランの先生、保護者、地域の方々、そして多くの子どもたちと掃除をさせて頂いておりますと、汗と共に涙が出そうになります。嬉しい限りです。

ある先生は「最初は、正直、抵抗感があった。しかし、いざ始めるとそのことに没頭し、自分が変わっていくことが分かった。早速勤務する学校でもトイレ掃除を提案し、実施した。朝は一番に学校に行き、まず黒板をきれいにし、教室をもう一度整頓してから授業に望むようにしている」と語っています。こんな先生の姿に地域・保護者が動かされたいはずはありません。大切なのは、理屈ではなく、実践を通していかに自己変革できるかであり、行動の改革が意識の改革につながります。

また、大人が手本を示せば、子ども達も一生懸命です。たった二時間で子どもも変わります。ある中学生の感想です。「朝早くから、よりにもよってトイレ掃除するなんていやだな〜と思っていたのですが、いざ便器を前にするとそんな気持ちはどこへやら。そこには、便器を必死に磨いている自分があります。便器を磨くと、まるで自分の心も磨かれているようで、ピカピカになったときはとても清々しいです。最初は、朝からトイレを掃除するなんて物好きな人たちだと思っていました。いまでは僕も、その物好きな人たちの一員です」。

汚いことやしんどいことは、お金を出してやってもらおうという風潮があります。しかし、トイレ掃除のように、汚いこと、人が嫌がることに真正面に取り組むと心が洗われるような充実感、達成感を持つことができます。お金があれば何でも手に入るような時代だからこそ、人が嫌がることに手間ひまをかけ、また、古いものの命をよみがえらせるプロセスに、精神を鍛える意義を感じます。教育の困難な時代に、この「マンガ 便きょう会ものがたり」が発信する「共汗」や「徹底」、「感謝」や「感動」、そして「愛」などの大切なメッセージで、明るい展望が開けていくことを信じています。

「トイレ掃除をすれば謙虚な人になれる」この言葉を自らの戒めとして、このマンガ作成にお世話になった「日本を美しくする会」や「京都精華大学」など多くの皆様に感謝しつつ、私自身、これからも学ばせて頂きたいと念じています。